

# 観光振興へ情報発信



デジカメで撮影した「今、咲いている花」の写真をホームページに投稿すると、即座に有名ホテルや銀行、商店街、カフェなどの大型モニターなどに配信され、2万人近い人に見てもらえる情報サービス「花なび」が4年前に京都で誕生した。

考案者の高木治夫さんの専門は観光振興。内閣府地域活性化伝道師や総務省の地域情報化アドバイザーとして活躍中のシニアである。「観光客、特に海外から来られた人が、ホテルのロビーできれいな花の写真を見たら、「この花を見に行ってみよう」と思いますよね」。投稿者は、花の見

頃を良く知っているタクシム運転手や、写真好きの高齢者。仕事や散歩のついでに撮影する情報ボランティア活動である。

観光地にとって、「花なび」は無料で利用できる国際的な観光情報発信プラットフォームである。写真の腕に自信があり、日本の観光振興に協力したい意欲のある人なら誰でも投稿者になれる。

京都の女性たちによる情報学習を支援するNPO「花パソ」の馬場次代理事長に「『花なび』のボランティアをやってもらうところ、自分の撮影した写真をたくさんの人に見てもらえてお役

に立てるんやったら、みんな喜んでやってくれはると思う」とうれしい返事である。写真は京都だけではなく、日本各地のどこから投稿してもよいそうだ。

多機能携帯電話（スマートフォン）利用には専用の「花なび」アプリ（アイコンのみ）が必要だが、英語にも対応して現

在地から近い「見頃の花」だけでなく、人気のカフェやレストランも表示される。

旅をする人と観光地がネットつながり、ボランティアとネットメディアが連携して楽しい旅を応援する取り組みは、進化の途中にある。高木さんは今年の9月から、「舞妓なび」アプリをスタートさせた。日本の観光を元気にする新たな挑戦が始まっている。（老テク研究会事務局長・近藤則子）



「舞妓なび」に登場する舞妓さんと写真に納まる高木治夫さん（東京都港区）